

2026年6月30日
日本銀行決済機構局

第6回CBDCフォーラム全体会合の議事概要

1. 開催要領

(日時) 2026年6月3日(水) 16時30分～17時30分

(形式) 対面形式およびWeb会議形式

2. 日本銀行からの説明等

- 事務局から、パイロット実験の進捗状況やCBDCを巡る海外の動向¹、CBDCフォーラム各ディスカッショングループ(DG)の運営方法²について説明を実施した。その後、質疑応答を行った。

3. 主な質疑等

(参加者) フォーラムの再編については、時宜を得たものであり、異論はない。そのうえで、今後DGでの議論はどの程度の期間行っていくのか、また目指すべき着地点はどこか、現時点で想定していることがあれば教えてほしい。

(事務局) DGでの議論をどの程度行っていくのか、着地点をどこに定めるのかなど、現時点で確定しているものはない。なお、DG2については、新たな技術の進展やホールセールCBDCへの社会的関心の高まりなどを踏まえて、それなりの頻度で開催したいと考えており、DLT連携サンドボックスプロジェクトの進捗状況等も紹介しつつ、技術的な観点から活発に意見交換をしていきたい。

(参加者) 複数のDGに関連するテーマを議論する場合、どのような運営になるだろうか。

¹ https://www.boj.or.jp/paym/digital/d_forum/dfo260604b.pdf 参照

² https://www.boj.or.jp/paym/digital/d_forum/dfo260604a.pdf 参照

(事務局) 例えば、A I やセキュリティをどう扱うかといったテーマは各D Gに共通する重要な論点だと考えている。これまでのワーキンググループ(WG)では、複数のWGに関連するテーマを議論する際には、会合を共同開催してきた実績がある。D Gでも必要に応じて共同開催を検討して、重要なテーマに関しては幅広く取り扱っていききたい。

(参加者) 社内向けにC B D Cフォーラムでの議論を報告する際、必ずと言っていいほど、C B D Cの発行可能性や時期、それに向けて準備すべき課題について質問を受ける。C B D Cフォーラム発足時同様、現時点においては発行する計画はないとの認識でよいか。もしC B D C発行を判断する上での目線やポイントがあれば教えてほしい。

(事務局) C B D Cを発行するかどうかは現時点では決定しておらず、今後の国民的な議論を経て決まっていくという状況に変わりはない。我々としては、仮に今後C B D Cの発行が必要となる場合に備えて、技術的側面からの検証や知見の蓄積を進めているところ。なお、制度設計については、財務省による取りまとめのもと「C B D Cに関する関係府省庁・日本銀行連絡会議」で議論・検討が進められており、今後開催されるD G 1において制度関連のテーマを扱う際には、そこでの議論・検討状況をフォーラム参加企業の方々にお示ししながら、議論していきたい。

(参加者) 海外動向については、D G 3で取り扱うことになると思うが、例えば、米国のステーブルコインの現状・規制動向やC B D Cのクロスボーダー利用等について説明・議論する予定はあるか。

(事務局) 現時点では米国の状況だけを取り上げてテーマ化する予定はないが、海外の動向を把握することは引き続き重要。これまで同様、海外動向に関する日本銀行の調査結果を、機会を捉えて説明していきたいと考えている。クロスボーダー取引に関する海外動向については、D G 2において取り扱う可能性がある。C B D Cのクロスボーダー利用については、ホールセール決済の分野で、B I S (国際決済銀行) とI I F (国際金融協会) が主導し、

日本銀行も参加しているプロジェクト・アゴラ³等様々な取組みが存在する。5月に実施したD G 2の初回会合では、同プロジェクトの概要について説明したが、今後も必要に応じて日本銀行から情報を発信していきたい。

以 上

³ https://www.boj.or.jp/paym/intlact_pm/bisih/index.htm 参照